

パースの金環食

山口 雅之

1月21日(月)の朝、夏のパースからQF79便で成田に降り立つと、気温 -1°C でふるえあがりました。長男のリクエストで、パースのそれから数えて4回の上野動物園に出かけましたが、あいにく月曜の休園日。雨も降り出し、午後の羽田発のフライトで帰高いたしました。日中の東京の気温は 6°C でしたが、さすが高知は 16°C と暖かく、ヤレヤレといった感じでした。

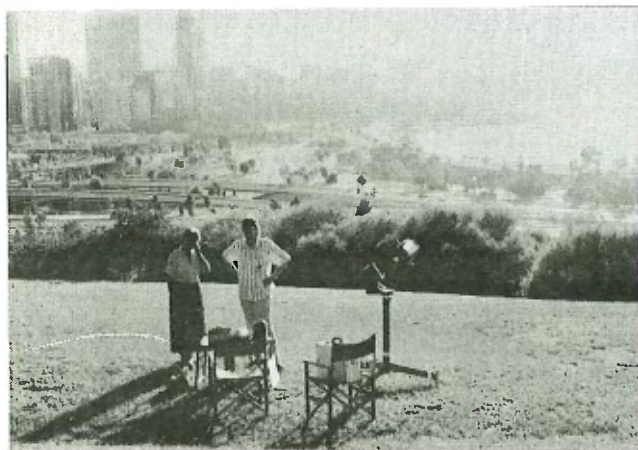
パースの当日は、南東方向約5度まで雲があり、日の出時のカマは観られませんでしたが、第2接触以降は一部雲がよぎったほか、ほぼ全経過を観望することができました。(パース中心地より南西2kmにある、キングスパークの展望台、E118度、S32度付近にて)

前日の現地のインフォメーションは、TV、新聞等にまったくなく、次の日の新聞に半面の記事を見かけただけです。

日本からはJPLのグループ以外に、“Sky WATCHER”の20名程のグループが同じフライトで往復し、彼らはパースの西の島「Rottneast Island」で観測したとの事。海上観測がなければ、多分このグループが西の端の観測と思われます。

私のいたキングスパークは地元のアマチュア天文家十数名と、日本から出向して来ている商社マン夫婦やアルバイトの学生が観望していたという、ゆったりとしたものでした。

100万都市の近郊にしては、空気は大変すみわたっていました。なお、第2接触後の光量、気温の低下は感じられませんでした。(1987.9.23の沖縄の金環より、ずっと大きなリングのイメージを持ちました。)ベイリービーズは観られましたが、プロミネンスは見えず、また、動植物の異常な行動も観察されませんでした。



地元アマチュアの観測風景



第2接触直前